

当別町地域公共交通活性化・再生総合事業計画

平成 22 年度

(案)

当別町地域公共交通活性化協議会

平成 22 年 3 月

平成 22 年度 当別町地域公共交通活性化・再生総合事業計画 目次

1.	コミュニティバス実証運行	
1. 1	当別ふれあいバス実証運行事業	1
1. 2	デマンド路線実証運行事業	2
2.	設備の充実	
2. 1	待合所環境の改善	2
3.	利用促進策の実施と公共交通サービスに関する情報提供	
3. 1	モビリティマネジメントの実施	3
3. 1. 1	小中学生向けモビリティマネジメント	
3. 1. 2	住民向けモビリティマネジメント	
3. 1. 3	ニューズレターの発行	
3. 1. 4	交通マップの作成	
3. 2	バス祭りの開催	4
3. 3	利用促進事業の実施	4
3. 3. 1	利用促進ツアー等参加型事業の実施	
3. 3. 2	小中学生向け移動展示会の実施	
3. 3. 3	バスのホスピタリティ向上事業	
3. 3. 4	公共交通に関するセミナーの実施	
3. 4	ノーマイカーデーの実施	4
4.	調査・研究等	
4. 1	OD・アンケート調査事業	5
4. 1. 1	アンケート調査	
4. 1. 2	OD調査	
4. 2	本格運行体制調査検討事業	5

1. コミュニティバス実証運行

1. 1 当別ふれあいバス実証運行事業

昨年実施した当別ふれあいバスの実証運行を参考に、次のことを実施する。

・基本路線の利便性向上と乗降データの分析

ダイヤ改正により、みどり野・青山線と西当別・あいの里線の乗継時間の改善を図った。また、市街地循環線をモビリティマネジメントと連動させた利用促進を計画するほか、長期休暇限定定期や100円回数券、1日乗車券などの割安なチケットの販売と、小中学生向けのモビリティマネジメントと連動させ、利用者数の増加を図る。

これらの利用者数の増減については、通常行っている乗降者調査に加えて、OD調査を実施して、過去の利用者数の比較を行い、平成23年度からの本格運行に向けた路線の検討を行う。

・レールアンドバスライド+DRT型バスシステムの検証

昨年4月から運行を行っている、23時58分札幌発あいの里公園行の最終便に合わせたDRT型深夜バス「SuiSui ふれバ」を今年度も実施する。利用者の増加策の実施を行い、本格運行の可能性を見定める。

・1日乗車券の販売

当別ふれあいバスは、1乗車一律200円の定額料金としている。1路線のみ利用する場合は安価であるが、乗り換えが発生すると、往復で800円もかかることから、500円で乗り放題となる乗車券を作成し、金銭的な乗り換え障壁を取り払う。また、観光客やお試し移住者などの単発利用にも活用してもらい、利用者の増加を図る。

▼通常路線概要

路線	: 平日～7系統83便、土日祝日～2系統 31便
運賃	: 1路線200円（小学生、障がい者、介護人半額）
応援券	: 1ヶ月4,000円、3ヶ月10,000円、6ヶ月16,000円 （小中高校生、障がい者、介護人半額）
長期休暇定期	: 小学生～500円、中学生～1,000円
回数券	: 一般用～12枚綴り2,000円 小学生・障がい者・介護人～24枚綴り2,000円
1日乗車券	: 一般用～500円、小学生・障がい者・介護人用～300円

▼SuiSui ふれバ概要

路線	金曜日、土曜日のみ運行、20時まで予約 乗車はJRあいの里公園駅のみ、降車はバス路線のバス停すべて
運賃	1,000円（応援券利用者は500円）

▼運行系統・運行回数

系統名	運行系統	系統 キロ	運行回数		備考
			往	復	
市街地循環線 (昇順コース)	J R 石狩当別駅南口～栄町 ～当別駅南口～春日町～当別駅南口	14.5 km	7 便		土日祝日運休 一部乗り越し可
市街地循環線 (降順コース)	J R 石狩当別駅南口～春日町 ～当別駅南口～栄町～当別駅南口	14.5 km	6 便		土日祝日運休 一部乗り越し可
西当別線	J R 石狩当別駅南口 ～ロイズふと美工場	12.0 km	6 回	6 回	
あいの里線	J R 石狩当別駅南口 ～医療大学あいの里キャンパス	17.5 km	8 回	8 回	土日祝日運休
金沢線	J R 石狩当別駅南口 ～北海道医療大学	4.0 km	12 回	14 回	土日祝日運休
みどり野線	J R 石狩当別駅南口 ～みどり野会館	9.0 km	2 回	2 回	土日祝日運休
青山線	J R 石狩当別駅南口 ～青山会館	15.5 km	6 回	6 回	
SuiSui ふれバ	J R あいの里公園駅 ～区域内運行	区域内 運行	0 回	1 回	金曜・土曜 のみ運行

1. 2 デマンド路線実証運行事業

昨年度実施した調査を基に、予約型の路線バスの実証運行を行う。運行収入のみで運行できる自立した路線となるか検証する。

2. 設備の充実

2. 1 待合環境の改善

待合環境の改善を図るため、上屋のある待合所の整備、デザイン性の高い停留所ポールやベンチ等の設置、バスに関する情報を周知できる掲示板の整備などを行う。

3. 利用促進策の実施と公共交通サービスに関する情報提供

3. 1 モビリティマネジメントの実施

3. 1. 1 小中学生向けモビリティマネジメント

小中学生を対象として、社会学習の一環として総合的な学習の時間や社会科教育の中で、「交通すごろく」や「交通日記」の作成による交通行動を再認識や、二酸化炭素排出量の違い、使用済みてんぷら油から精製したバイオディーゼル燃料（BDF）でバスが走る仕組みについての環境学習を行う。その際、バスを学校へ持ち込みてんぷら油の臭いがする排気ガスの体験や、実際の路線を走らせる授業も行い、バス利用のきっかけとする。

3年目を迎える本年は、当別版の授業スタイルの確立を目指し、平成23年度移行も継続実施できる体制を整える。

▼実施概要

実施対象	当別町内小中学校
実施内容	交通すごろくの実施（小学校低学年） 交通日記の作成、BDFの授業（小学校中学年～中学生）

3. 1. 2 住民向けモビリティマネジメント

市街地循環線の利用促進を図るため、沿線住民に対し、行動プラン法を用いたモビリティマネジメントを実施。実際の行動を公共交通利用に切り替えることを机上で計画し、公共交通利用をイメージしやすくすることで、交通行動の変容へとつなげる。

▼実施概要

実施対象	市街地循環線沿線住民
実施内容	ポスティングによりアンケート票を配布

3. 1. 3 ニュースレターの発行

住民に対して公共交通への理解を深めてもらうには、公共交通の重要性に関する情報を発信する「事実情報提供法」が必要である。そこで、定期的にニュースレターを発行し、公共交通への理解と認知度の向上を図り、自発的な公共交通への行動変容を促す。

▼実施概要

実施対象	全町民を対象とし、町広報誌と一緒に配布
実施内容	年6回のニュースレターの発行、A4版両面刷り

3. 1. 4 交通マップの作成

バスの利用促進を図るため、バスの路線図・時刻表を作成する。持ち運びやすいサイズで作成して、他の交通機関の乗り継ぎ情報を記載し、公共交通の活性化を促す。ダイヤ改正に併せて作成し、全町に対してバスの情報周知に活用する。

▼作成概要

作成様式・部数	A2板8つ折り両面刷り、4色カラー、10,000部
配布箇所	全戸配布、バス車内、応援券販売所

3. 2 バス祭りの開催

バス利用促進事業の一環として、公共交通と地球温暖化をテーマにしたイベントを開催し、来場者にふれあいバスへ乗車してもらい新たな利用者層の発掘を図り、利用者増へつなげる。

公共交通利用を促すため、様々なバスの展示を行うほか、JR学園都市線の電化計画とも連動させ、バスとJRの乗り継ぎなど、公共交通利用に関するイベントとしても実施する。

その他、バイオディーゼル燃料や地球温暖化に関する展示や、交通に関するセミナーを体験してもらおう。ノーマイカーデーなどとも連動させ、会場に来る際には公共交通機関を利用するよう働きかける。

▼事業概要

開催日程	平成22年10月上旬の日曜日
会場	当別駅南口広場およびふれあい倉庫

3. 3 利用促進事業の実施

3. 3. 1 利用促進ツアー等参加型事業の実施

昨年度実施した利用促進ツアーでは、バス利用者の生の声を聞くばかりでなく、バスを通じた利用者同士の交流も行われ、大変好評だった。今年度も利用促進ツアーなどのバス利用者参加型の事業を開催し、利用者の定着を図る。

3. 3. 2 小中学生向け移動展示会の実施

小中学生を対象に、テーマに沿った絵を募集して、車体へ描いたり車内に掲示する移動展示会を一定期間開催することで、子供がバスに興味を持つきっかけとする。また、描いてもらった絵をポスターやチラシに活用し、利用促進の一つとする。

3. 3. 3 バスのホスピタリティ向上事業

乗客が再度利用したくなるバスを目指し、当別ふれあいバスの運転手に対し、各種講習を実施するとともに、継続して接客技術の向上に努める。

3. 3. 4 公共交通に関するセミナーの実施

地球温暖化と公共交通利用に関するセミナーを実施し、住民の交通と環境意識の向上を図る。また、他の事業と連動させて、参加者が増加する工夫を図る。

3. 3. 5 ふれあい倉庫連携事業の実施

ふれあいバス利用者がふれあい倉庫で買い物した際にメリットをつけるなど、連動した事業を計画する。

3. 4 ノーマイカーデーの実施

公共交通利用を促すため、自家用車の使用を抑えるノーマイカーデーを実施する。取り組んでもらいやすくするため、バス祭りやセミナーなどと連動して行うほか、広報の実施や料金割引なども検討する。

4. 調査・研究等

4. 1 OD・アンケート調査事業

4. 1. 1 OD調査

実際にバスを利用している乗客の路線別のOD量を調査する。利用者属性、乗降停留所のほか、支払種別、乗換の有無など利用実態も調査する。昨年と同様の調査を実施しているが、昨年と同時期に実施して、ダイヤ改正に伴う利用者の変化の比較も行う。

▼調査概要

調査路線・期間	全路線、以前実施した時期（冬季）に7日間実施
調査方法	調査員がバスに乗車して、乗降者数をカウントする 乗り換えの有無なども調査し、過去2年の調査と比較

4. 1. 2 アンケート調査

当別ふれあいバスの運行や協議会事業に関するアンケートを、今年度実施するイベント内で参加者に対して行う。

▼調査概要

対象事業	バスまつり、利用促進ツアー、小中学校の授業 他
調査方法	無記名によるアンケート、内容によってはノベルティ有り

4. 2 本格運行体制調査検討事業

これまでの当別ふれあいバス実証運行の成果と問題点を整理し、平成23年度の本格運行に向けた運行の方向性を示す。また、企業と自治体が出資する特殊なバス事業の性質を踏まえ、最適なバスの運行体制を構築するための調査・研究を行う。

▼調査概要

調査期間	運行に関する方向案の作成（平成22年9月まで） 実績の取りまとめ（平成23年3月末まで）
調査方法	事業者へのヒアリング、利用者数・収入実績の分析

